

# 原発に依存しないで地域経済をどう再生するか 京都大学大学院の岡田知弘教授が講演



原発に依存しない地域をどうつくるか。地域経済をどう再生するか。11日に柏崎市で行われた『原発に依存しない地域づくりへの展望』（自治体研究社）出版記念の集いに参加してきました。

記念講演で

は、京大大学院の岡田知弘先生が「原発に頼らない地域経済振興条例をつくる」をテーマに話をしてくださいました。「地域が豊かになる」とは住民ひとり一人の生活が維持され、向上すること。地域づくりの目標は「一人ひとりが輝く地域」にすること。喫茶店は単なるお茶を飲む場所ではない。中小企業に対する理解を広げていくためには学校教育が重要だ。グローバル競争に左右されないようにやっていくには、自分たちの地域の個性は何かを把握すること、地域の宝さがしが大事。岡田先生の話には基本的なことから具体的な対策まで参考になることが多く、メモを取りきれないほどでした。

この集いでは、本の執筆にあたった人たちがそれぞれの思いを語りました。また、岡田先生の講演をもとに若干の議論も行われました。出版記念夕食会では、参加者の一人ひとりが

本にたいする思い、地域経済についての考えなどを語りました。岡田先生は、世界最大の集中立地となつている柏崎刈羽原発をなくすことが出来れば、世界から原発をなくせると語られました。私は、昨年のフォーラムで話題となつた郷土食について書いた私の随想、「ぶり大根」を朗読しました。

## 体育館の天井材落下防止工事、今年度は浦川原中、板倉中等で実施

公立小中学校などの体育館などのつり天井落下防止がどうなつていくか。文科省では自治体に通知を出すことを明らかにしています。

上越市内の小中学校ですが、体育館の天井材落下防止工事が必要なものは、現在、小学校が20校、中学校は7校です。

このうち、小学校は、大手町小、高田西小、下保倉小、大瀧小の4校で今年度、工事が行われます。中学校は、城東中、浦川原中、頸城中、板倉中、中郷中、三和中の6校で同じく今年度、工事が行われます。

15日、市教委教育総務課の担当者に確認をしたところ、残りの学校については、小学校の16校は計画を立てて、27年度までに終了させる。中学校は26年度に工事をするという予定だということです。なお、工事計画については4月の校長会で連絡済みであり、今年度の工事は、夏休みを中心にやりたいということでした。

## 議会への注文相次ぐ

市議会主催の議会報告会が15日、大潟区コミュニティセンターで行われました。参加者は10数人で少なかつたのですが、議会活動や市、



【ウゴックバネウツギ】いま黄色いラッパ状の小さな花を咲かせています。初めて出会ったのは、吉川区にある六角山でした。この写真は私が現在住んでいる吉川区代石の池の周りの遊歩道で見つけたものです。

市教委の方針への意見、疑問、注文などが出されて参考になりました。

●（仮称）厚生産業会館基本構想に関して「諮問事項について、市が途中で、構想そのものは是非ではなく、施設の環境等への影響を諮問している」としたのはおかしいのではないか。

●合併後9年目になるのに、公民館の活動に差があるのは問題だ。もっと早く是正すべきだった。議会でも頑張つてほしい。

●新幹線開業後、優等列車もさることながら、大潟区では、信越線、ほくほく線が大事なもので、現行のダイヤを維持できるようにしていただきたい。

●（仮称）厚生産業会館問題では、多数の議員が地域協議会を傍聴されたが、傍聴だけで、意見交換がなかつたのは残念だった。市議会でも特別委員会を設置して、上越市の地域自治制度を今後どう進化させていくか検討すべきでないか。

●原発事故を想定した防災訓練が必要だ。原発事故用のサイレンの音ももつべきだ。検討してほしい。

写真は大潟区での議会報告会の様子。



倒れた木や邪魔な枝などを片付け、ゴミを拾い、たまった土砂をどかしたばかりの用水路。水源の大滝から水を取り入れると、残ったゴミを巻き込みながら水が丸くなって低い方へと流れていく。普請直後の通水を見て胸がいっぱいになりました。

私が今回、体験したのは吉川区の山間部、川谷にある立石用水の普請です。この用水は尾神岳（標高七五七メートル）の中腹に切り開かれたもので、全長が約一・五キロメートルあります。高齢化が進み、集落だけの力では用水普請が困難となってきた。いななかで、何としても用水を守りたい、そう思っている人たちが考えだしたのは「深山の水を田に引く：ボランティア支援による用水普請」です。ホームページなどで全国に訴えました。もちろん、初めての試みです。

当日の朝、八時ちよつと前、どんな人たちが集まるのかなと思いつながら、旧川谷小学校の校庭に行くと、水たまりを囲むようにして何人かがおしゃべりをしています。写真を撮っている人もいました。水たまりにはたくさんのおタマジャクシがいたので、この光景を見て、面白く、楽しい普請になりそうな予感がしました。

簡単な打ち合わせの後、集まった一〇数人の人たちは三台の軽トラに分乗して用水の近くまで行き、あとは歩きました。耳に入ってきたのは小鳥たちの賑やかなさえずりです。ウグイスやオオヨシキリなどの合唱が私たちを迎えてくれました。

用水路のあるところまで上がって、午前は二つの班に分かれ、午後は全員で水源に向かって作業を行いました。水路にかぶさった枯れ草を草刈り機やカマで切る。水路を埋めている土砂や落ち葉などをスコップでさらう。倒れた木をチェーンソーで切断し、片付ける。作業は順調に進み、初めての人が多いとは思えませんでしたが、私が立石用水を訪れたのは今回で三度目か四度目だと思えます。何度見てもすごいと思うのはバカでかい岩を削って水路をつくってある所がいくつもあることです。細い岩場の道を恐る恐る歩きながら、みんなが先人の仕事のすごさを口にしていました。水路の近くにある数々の巨木も目を引きまします。そのうちの一本は巨大な太さの幹と枝を持ったヤマザクラ、怪物のように立ち、今回も見ると圧倒していました。

さらに、野の花もたくさん咲いています。この日はナガハシスミレ、キスミレ、エゾエンゴサク、ニシキゴロモ、トキワイカリソウなどの花と出合いました。いずれも作業の疲れを忘れさせてくれる美しさをそなえています。東京からやってきた女性陣は盛んに花の写真を撮っていましたね。

草がまだ伸びていないことや大勢のボランティアが参加したことであって、作業は当初予定よりも二時間ほど早く終わりました。私は原之町在住のMさんや糸魚川市からやってきた若夫婦などとともに用水路の下流の方を見ました。どんづまりまで行って、びっくりしました。用水はそこから一気に一〇〇メートルほど下っていたからです。眼下には川谷地区で一番の面積を持つ棚田が広がり、旧川谷小学校の校舎や家々も見えます。改めて、用水を切り開いた先人の努力に頭が下がりました。

夕方の懇親会には上越やまざと暮らし応援団の小山理事長もビールを持って駆けつけ、地元町内会を代表してお寺さんが挨拶しました。ボランティア募集を呼びかけた天明さんは、「多くの人の手を借りる事によって、『米作りのバトン』を渡し、先人の思いを今人に伝える』行事になりました」と喜びました。感想を語った参加者はみんな笑顔です。私は深山の水は来年も、再来年も田んぼに引かれると確信しました。

## 委員会のインターネット中継、23日にテスト

市議会の常任委員会、特別委員会などのインターネット中継については6月議会から本格実施されることが決まっていますが、その前に、今月23日の午後1時30分からの

厚生常任委員会所管事務調査の様相を試験放送することが決まりました。

また、委員会記録のインターネットでの公開については、委員会であろうが、委員協議会であろうが3月議会から公開することになっています。いま、公開に向けて準備中とのことでした。3月議会での委員会記録は、A4サイズの紙で2665枚にもなるそうです。これらは13日の議会各派代表者会議で明らかにされました。

### 高田東ロータリークラブで講演

13日、高田東ロータリークラブの例会で講演を依頼され出かけてきました。

テーマは「一人ひとりが輝く地域づくり」です。山菜の「嫁泣かせ」や12日の立石用水普請などを例に楽しく、話

をさせてもらいました。最後は私の新随想集『あねさかぶり』（同時代社）所収の「スマイルカフェ」を朗読しました。みなさん、集中して聴いてくださり、うれしかったです。同クラブの集まりに参加することも話すことも今回が初めてでした。



### ドクターヘリ離着陸場公開

上越地域消防事務組合のホームページで管内のドクターヘリ離着陸場がこのほど公開されました。これは私が10日、同組合に求めていたことです。あなたの近くに離着陸場があるかどうか確認してください。

同組合によると、ドクターヘリの離着陸場は、上越市内は94カ所です。吉川区内には、源地域と旭地域生涯学習センター、吉川中学校グラウンド、吉川小学校グラウンド、吉川野球場の5カ所、あります。

**上越地域各消防署における空間放射線量測定結果**（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	5月8日(水)	5月15日(水)
上越南消防署	0.040	0.030
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.040	0.040
東頸消防署	0.047	0.047
高士分遣所	0.053	0.050
名立分遣所	0.053	0.057